

チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No.116 2020年6月24日発行



チェルノブイリ事故から34年 支援を必要としている子どもたち



4/19(日)に開催を予定していました豊田直巳さんの講演会は、新型コロナウイルス感染拡大の影響により、4月に週末外出自粛要請が出され、会場の利用も禁止となりましたため、開催を延期いたしました。安心して多くの方が参加できるようになる時期を待ち、改めて設定したいと考えています。チラシ・ポスター宣伝、ネットでの情報拡散など、開催のためにご協力いただいたみなさま、本当にありがとうございました。当日ボランティアを予定して下さっていたみなさま、次回ぜひお願いいたします。

チェルノブイリ子ども基金が支援している子どもたちが暮らしているウクライナとベラルーシでも、新型コロナウイルスによる様々な影響が出ています。5月末から予定されていた「チェルノブイリ被害者家族の保養」は7月に延期になりました。病気をかかえる子どもたちは免疫力が低く感染症にかかりやすいため、親たちは不安を抱きながら過ごしています。まだこの影響は続くと思われまます。みなさまもどうぞ気をつけてお過ごしください。

～～ 本号の目次 ～～

p.2～3 「フクシマ原発事故から9年に思うこと」
豊田直巳
p.4～5 チェルノブイリ事故から34年
支援を必要としている子どもたち
p.6 ウクライナ 内分泌代謝研究所

p.7 チェルノブイリのうたごえ
p.8～9 新型コロナウイルス
ウクライナとベラルーシの状況
p.10 黒部ドクターのお話
p.11 募金・救援状況

「新型コロナウイルスは、9年前に福島第一原発から撒き散らされた放射能に似ている」と言われるようになりました。見えない、感じないというだけでなく新型コロナウイルスに感染した方はもとより、感染者を受け入れた医療機関の関係者まで差別と偏見の対象となっている点は、原発事故による「被ばく者」のみならず、例えば福島ナンバーの車に乗っていただけで差別や嫌がらせの標的になった点などと同様だと。

悲しいことに、人は見えない恐怖から逃れようとするとき、その不安の原因を見極めよう、知ろうとするよりも、自分を危険に追い込むかもしれないと思える相手に、自分の不安が続くことへの憤りをぶつけようとしているかに思えます。その「自分を危険に追い込むかもしれないと思う」ことに、たとえ根拠がなくても、たとえば、虚実入り交じったネット情報などを確認もせずに信じ込んでしまっ、です。

9年前「放射能がうつる」と言って福島からの避難者を差別したという話はその典型でしょう。

ここまではこの9年間に繰り返し指摘されてきたことです。このニュースレターをお読みの方々には「何をいまさら」の話ですね。そこで、今回の新型コロナウイルス問題で、可視化されたことをちょっとメモしておきたいと思えます。

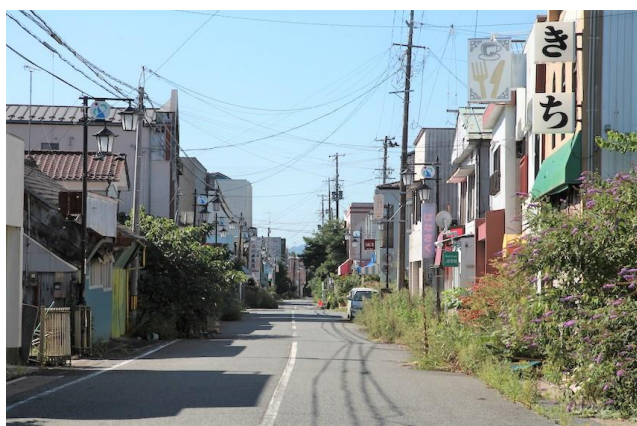
5月7日に福島県いわき市は市のホームページに「新型コロナウイルスの感染拡大防止のた

めに他県から本市への観光や帰省については自粛をお願いしているところですが、福島県（いわき市）在住で県外ナンバーの車に乗っている方へ」「安心して生活することができるようステッカーを作成しましたので、必要に応じて印刷して車に掲示する等によりご利用ください。」として掲載しているのが「県外ナンバーの車ですが・・・いわき市に住んでいます」というステッカーなのです。

もちろん事の発端は福島県内において、あるいはいわき市内で、「県外ナンバー」の車や、乗車する人への嫌がらせがあったのでしょう。その「自己防衛」を促しての、市の施策の一つなのでしょう。しかし、このステッカーの発想にあるのは、差別や偏見には目をつぶって、せめて自分“だけ”でも、自分たち“だけ”は、身は守りましょう、という思いがあるように考えるのです。

もちろん一人ひとり、弱い個人の中には、そのような対処しか思い浮かばない方もいるでしょう。しかし、行政当局の対処がそれでいいのでしょうか。

「いわき市に住んで」いない「県外ナンバー」の車でいわき市や福島県を訪れた者は、このステッカーを見て、どう感じるでしょうか。「私の車は嫌がらせを受けても仕方がない」「自分は罵声を浴びせられるに値する人間だ」と思う、と、あなたは考えますか？むしろ、二度と福島



には行かない、いわき市はなんと排外的なんだろうと受け取ると、私は感じるのです。

たとえば、ヒロシマ、ナガサキの被ばく者が、「二度とヒロシマ、ナガサキに“だけ”は原水爆を落とさないで」と願い、そう公言していたら、核兵器禁止条約が国連で採択されたり、その採択を国際社会に働き掛けてきた核兵器廃絶国際キャンペーン(ICAN)がノーベル平和賞を受賞するなどあり得なかったと思います。そしてまた、この禁止条約採択やノーベル平和賞受賞を、被ばく者が喜ぶこともなかったと思うのです。被ばく者が喜んだのは「世界中のどこでも核兵器は禁止されるべき。被ばく者は自分たちを最後にしなければならない」と訴え、心からそう思い、願ったからではないか、と。

今も皆さんが支援を続けるチェルノブイリの被災者も、この被ばく者と同じような願いと意気込みを持っているはず。 「チェルノブリでなければ、他の原発事故など、私たちは関心もありません」などということはありません。

だからこそ連帯が求められ、成り立つし、成り立ってきたのだと思います。そのような連帯を成り立たせるものは、核兵器問題や原発事故問題に限らないはず。

「自分“だけ”が被災者」「自分“だけ”が被害者」「自分“だけ”が不安を抱えている」「自分が“一番”の被害者」「自分が“一番”苦しい」etc. との思いは、ときに排他的で攻撃的な言辞につながるとは考えませんか？

その対極にある「たとえ問題の在処は違っても、私と同じように苦しむあなたと、その苦しみを少しでも和らげたい」と願う人々の、連帯を求める心の中にこそ、弱い私たちの中にある差別や嫌がらせを克服していくヒントがあると思うのです。

そんなことをフクシマ原発事故から9年に重なってしまった新型コロナウイルス災禍のいま、思うのです。

豊田直巳 プロフィール：フォトジャーナリスト、ドキュメンタリー映画監督・制作、JVJA（日本ビジュアルジャーナリスト協会）会員。1983年よりパレスチナ・中東の取材を始める。その後カンボジア、アチェなど東南アジアや旧ユーゴ、コソボなどの紛争地を取材し、週刊誌、新聞、テレビなどで発表。平和・協同ジャーナリスト基金賞奨励賞受賞（2003年）。2011年の東日本大震災以降は、主に原発事故被害の取材を続けている。

【書籍のご案内】写真・文 豊田直巳
写真絵本シリーズ『それでも「ふるさと」』全3巻

（農文協）発行：2018年2月
◆第66回（2019年）産経児童出版文化賞大賞受賞（全3巻での受賞）

『百年後を生きる子どもたちへ「帰れないふるさと」の記憶』（農文協）発行：2020年1月

P2-3 4枚の写真

「無人の町＝福島県大熊町」2019年撮影
現在、「整備」という名目で、急速に住宅などの建物の解体作業が進められている。写真の風景は数ヶ月後には、もう見られないかもしれない・・・



チェルノブイリ事故から 34 年 支援を必要としている子どもたち

子ども基金は、ウクライナの慈善団体「チェルノブイリの子どもたちの生存」とベラルーシの慈善団体「困難の中の子どもたちへ希望を」を通して、病気の子どもの支援を行っています。これまで 313 人の子どもが里親支援を受けました。現在は 62 人の子どもが支援を受けています。里親から支援を受けている子どもたちと、新たに支援を待っている子どもたちを紹介します。

～*

T・ウラディスラフ 2007年生まれ

ウクライナ ナロジチ市

先天性心疾患。肺動脈弁狭窄症。先天性水頭症（脳水腫）。胸部奇形。口唇裂。尿道下裂。弱視。慢性耳炎。片方の耳だけ聴力がある。背骨の変形。全部で 13 種類の病気があり、常にどこかの病院にかかっている。これまでに尿道下裂の手術、鼻腔の手術、心臓の手術、胸部の形成手術を受けた。治療、手術代は公には無料とされているが、実際にはお金を支払わなければならないという。今後は顔面の形成手術を受ける予定。家族が暮らしているナロジチ市は、チェルノブイリ事故による放射線汚染第 2 ゾーン（第 1 ゾーンは強制退去地域）。

ウラディスラフは子どもの頃から現在まで、学校に通ったことがない。自宅に教師が来て勉強を教えている。趣味は音楽。家に一人でいることが多く友人がいないため、音楽が救いになっているという。現地団体を通して、自宅でピアノを弾くビデオ映像が送られてきた。美しい旋律を丁寧に弾いていた。



ウクライナの音楽コンクールに参加して優勝したトロフィーと賞状を手に

私はウラディスラフの母親です。すでに数年にわたり、私たちはチェルノブイリ子ども基金を通して里親支援を受けています。今日私は、この団体で活動している全ての方々に、援助を必要としている私どもの子どもたちへの壮大な支援と言っても過言ではない活動を毎回組織して下さっていることに対し、感謝の気持ちを表したいです。この支援のおかげで、私は自分の子どもに多くを与えられることを嬉しく思っています。もしもこの支援がなければ、国の年金だけで障害のある子どもを養っていくのは困難です。このような子どもたちには、薬、特別な食事、紙おむつ、その他多くのものが毎日必要です。みなさまが、私どもの子どもたちのことを気に掛けて下さっていることを心から感じています。私たちの守護神（人を危険から守ってくれる天使）である、誠実なお心をもったみなさまにお礼を申し上げます。みなさまのたゆみない活動は、私たち（両親）に翼を与えてくれると信じています。ほんとうにありがとうございます！みなさまにご幸運と、生活が明るく楽しく、そしていつもご健康でありますようにお祈りいたします。 2020年5月31日 ウラディスラフの家族より

B・ミーシャ 2007年生まれ
ベラルーシ ゴメリ市

下垂体腺腫。イツェンコ・クッシング病（副腎皮質刺激ホルモンをつくる腫瘍）。2017年に手術を受けた。成長遅滞。ホルモン補充療法を受けている。チェルノブイリ事故の影響による障害児に認定されている。

2015年から原因不明の体重増加が始まった。医師には食事療法と体を動かすことをすすめられたが、体重増加は止まらず、一方で身長が伸びなくなり、失神を起こすようになった。2017年秋、下垂体腺腫と診断され、長時間にわたる手術を受けた。

両親、兄、弟4人の大家族。母親は1986年生まれ。父親は1977年生まれ。音楽学校の教師。チェルノブイリ原子力発電所の事故が起きた時（当時9歳）、自分の両親とともに、チェルノブイリ原発から20キロのところにある村にいた。

＜ミーシャには、2020年7月より支援していただく里親が決まりました。＞

※表紙の左写真はミーシャと家族。また表紙の右写真は2018年から里親支援を受けている子どもと母親。

★以下のベラルーシの子どもたちの里親を募集しています。

P・ワーニャ 2010年生まれ モーズィリ市
生後5か月で後腹膜神経芽細胞腫と診断され治療を受けた。2019年9月、腹部臓器の癒着の為手術を受けた。両親、妹（6歳）、弟（3歳）と暮らしている。父親は新型コロナウイルスの影響により、職を失った。

G・ダーシャ 2007年生まれ ドーブルシ市
生後9か月の時、左後腹膜神経芽細胞腫と診断された。4ブロックの化学療法後、腫瘍摘出手術を受けた。3か月毎に検査に通っている。母子家庭で生活が苦しい。

P・ヴェロニカ 2012年生まれ ドーブルシ市
肝臓がん。1歳8か月で発病。肝臓の右葉を切除。10クルの化学療法を受けた。2018年に母親が死亡。祖父母のもとで暮らしている。3か月毎に検査に通っている。

【里親支援】日本の里親が一人の病気の子どもに対し月50ドル相当の金額を2年間支援していただくものです。2年後に再度里子の情報をお伝えし、支援の継続・終了を里親の方に決めていただきます。ご関心のある方は事務局へご連絡ください。詳しい資料をお送りいたします。



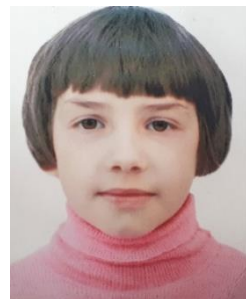
ミーシャ



ワーニャ



ダーシャ



ヴェロニカ

ウクライナ 内分泌代謝研究所

昨年末（2019年12月）、子ども基金は、ウクライナ国立医学アカデミー内分泌代謝研究所（キエフ市）の放射線診断科へ、以下の医薬品と心電図測定装置（2,208,400円）を支援しました。

- 甲状腺ホルモン剤エウチロクス 100mg 1567箱
- 心電図モニター1台、ホルター1台

内分泌代謝研究所にはウクライナ中から甲状腺の患者が訪れます。子どもの頃に甲状腺の手術を受けた患者たちは成人していますが、今も治療・検査を受け続けています。新型コロナウイルスの影響で混乱する中、以下の報告が届きました。（※ウクライナでは6月18日時点で防疫措置が続いており、重症患者の治療以外の外来患者の受付は行われていない、とのこと。）

～*～*～*～*～*～

チェルノブイリ子ども基金のみなさまに対し、心臓異常を伴う内分泌患者の検査へのご配慮とご支援に感謝いたします。

2020年2月、みなさまのご支援により24時間血圧モニタリング装置「ABP pro」を購入しました。内分泌異常の際には、心臓血管系の障害は頻繁に随伴して現れる合併症のため、この検査は患者に不可欠です。この装置により、医師は患者の心臓の状態を客観的に判断し、血圧を下げる治療を的確に選択することが可能になります。

この使いやすい装置を用いた検査を受けることのできる全ての患者を代表して、みなさまに感謝いたしますと共に、今後の協力を希望いたします。

2020年2月29日
内分泌代謝研究所
検査・診断科スタッフ一同より



医薬品を受け取った医療スタッフ

～*～*～*～*～*～

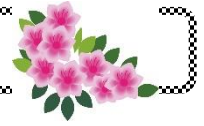
チェルノブイリ子ども基金と支援者のみなさま
チェルノブイリ事故の記念日を迎えるにあたり、多大なご努力と貴重なご支援に心からお礼を申し上げます。

私たちの部門には、5千人以上の甲状腺がんの手術を受けた患者が登録されています。彼ら、彼女らは放射線治療を受け、現在は甲状腺ホルモン剤を服用し、定期検査にきています。ほとんどが、チェルノブイリ事故当時子どもだった世代の患者たちです。部門では年間、約500人が放射線治療を受け、1000人が診断を受け、1,500人以上の患者が診察を受けます。

2020年4月14日
内分泌代謝研究所
放射線診断科 部長
グレヴァートイ・S・V



心電図ホルターを着ける患者



～ 百万本のろうそくを配り終えて ～

西ドイツのパトモス教団のハリー牧師の仲立ちで、未熟児の保育器を現地の病院に届けるという緊急援助から始まった「三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金」は、「チェルノブイリ子ども基金」との協力関係のもと、チェルノブイリの被曝児たちの保養滞在、各地でのイベントの開催、三重独自のリサイクルショップ「チェルノブイリ」の開店、そして、今日の里子支援に至るまで様々な活動を行ってまいりました。わたしたちの30年間の救援活動を如何に多くの方が支えてくださったか、感慨深く振り返らずにはおられません。この活動全体を例えるとするれば、スタッフの側の行為は一本一本のろうそくを配ることであり、募金してくださった皆様方の行為はそれぞれの思いを込めてそのろうそくに点火されることではないでしょうか。そのいずれの側の方々にも、すでに彼の国へと旅立たれた善き人びとが居られ、わたしの脳裏にいま、その崇高な笑顔でよみがえっていますが、できますことなら、ご遺族の方々に「ありがとうございました」とお礼の言葉を申し上げたく存じます。

さて、こんな風に点された火は、これから先どんな燃え方をつづけることになるのでしょうか。世の中は、いまパンデミック（感染爆発）の恐怖におのいているわけですが、政治世界では相変わらず自らの次の権力保持を見込む愚策をもっともらしい装いで政策方針だとする有様、とても当てにできそうもありません。やはり、次の世代に、百万本のろうそくを点す火が受け継がれること、このことの外に希望を託す道はないのだと思うのが、ろうそくを配り終えたわたしの実感です。ご協力くださいました皆様に、心から「ありがとうございました」と申し上げます。そして、一人でも多くの若い世代へと、あなた自身の「火」を移し点してくださいませようお願いし、お礼の言葉とさせていただきます。

2020年4月26日

チェルノブイリ原発事故から34年の日に
三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金
共同代表 三好鐵雄

「三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金」より、活動終了のご連絡がありました。子ども基金の活動にとっての大きな支えがなくなってしまうのは大変残念ですが、長きにわたるご支援に心よりお礼を申し上げます。

これまで里親としてベラルーシとウクライナの14人の子どもを支えいただきました。最初の里子（1984年生まれ）は甲状腺がんの手術を受けたベラルーシの女の子でした。いまは一児の母親となっています。脳腫瘍の手術を受けたウクライナの女の子（2001年生まれ）は、支援を受けている最中、9歳で命を落としました。2歳で腎臓がんの手術を受けた男の子（2007年生まれ）は、母子家庭で生活が大変厳しい時に支えられました。その他のさまざまな病気の子どもの家族たちも、みなさまのご支援に長い間助けられました。それぞれの国の慈善団体もみなさまに大変感謝しています。

このたび活動を終了するにあたり、チェルノブイリ子ども基金へ多額のご寄付をいただきました。子どもたちの救援のために大切に使用させていただきます。チェルノブイリ子ども基金はみなさまのお気持ちを引き継いでいきたいと思ひます。

長い間ほんとうにありがとうございました。

チェルノブイリ子ども基金 事務局



「三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金」より
支援を受けた子どもとその家族

チェルノブイリ子ども基金が支援をしている子どもたちが所属する、ウクライナとベラルーシの慈善団体から、新型コロナウイルス感染の影響についての情報が 3 月頃から届き始めました。ウクライナでは外出禁止で交通機関が停止している、また子どもの保養所は 6 月いっぱい閉鎖とのことでした。ベラルーシでは、感染を心配する親たちが子どもを学校に通わず自宅で勉強をしているとのことでした。また、ベラルーシのチェルノブイリ汚染地区の子どものための保養施設「希望」からは初め、「5 月いっぱい保養受け入れを中止し、6 月から再開」という連絡がありましたが、その後「6 月中旬から受け入れ再開」と変更されました。両国の事情に詳しいお二人から報告をいただきました。

【ウクライナ】

報告：平野進一郎
(子ども基金ボランティア)

今年の「4 月 26 日」、チェルノブイリ原発事故 34 周年の日は、新型コロナウイルスの感染拡大が深刻化する異常な状況の中で迎えられました。ウクライナでは、3 月はじめに感染の拡大がはじまると間もなく、都市封鎖や外出制限などのかなり厳しい防疫措置がいち早く講じられました。それでも連日 500 人前後の新規感染者が記録されるなど深刻な状況に陥りましたが、十分な措置が講じられなかったベラルーシや対策が遅れたロシアなど近隣諸国の状況と比較すると、人口規模や国内の医療インフラの脆弱さなどを考えれば、これまでの段階ではそれなりに爆発的の流行を抑えることが出来たとも言えそうです。当然のことながら国民生活は、深刻なダメージを受けていますが、政治社会情勢は概ね安定しています。「危機慣れ」し、そもそもあまり政府に期待していない国民性が幸いているかもしれません。ただ、ウクライナは昨年、ソ連崩壊以来最も経済が安定し、高成長を記録していたのですが、今後再び財政状況が悪化するの避けられず、チェルノブイリの被災者などへの公的な支援がさらに削られる懸念があります。

また、新型コロナウイルス関連のニュースで霞んでしまいましたが、この 4 月、チェルノブイリ原発近隣の立入禁止区域内と周辺では、主に放火が原因と見られる過去最大規模の森林火災が発生

し、一時はキエフ市内や地域一帯も煙に覆われる事態となりました。当局の発表によれば、放射線レベルは火災現場以外では、特に上昇は見られず、基準値以下に抑えられたとのこと。ただし、キエフ市内の PM2.5 など大気汚染物質の濃度は危険レベルに達し、一時、アジアの大都市を倍以上上回る「世界で最も大気汚染の深刻な主要都市」になりました。このため、当局は、窓を閉め、外出制限を徹底するよう求めました。火災自体は、周辺で雨が降ったこともあってチェルノブイリの日前後に主要な部分は鎮火されましたが、その後、5 月半ばまで散発的に続きました。土中の泥炭層の火災は完全に鎮火するのが難しいとされます。例年は、乾燥する夏場に火災が広がることが多いため、当面油断はできない状況です。また、近年は気候変動などの影響から、汚染地域周辺の火災が増え、大規模化する傾向にあります。

4 月 26 日当日には、例年各地で集会が開かれますが、今年は中止やオンラインでの行事に切り替えられました。一方、政府行事としては、この火災の現場視察を兼ねる形で大統領や首相ら、政府高官がチェルノブイリ原発 4 号炉近くにある記念碑をマスク姿で訪れ、花を手向けました。メッセージの中でゼレンスキー大統領は、「チェルノブイリの大事故は、誇張でなく、全世界規模の災厄となった。それは、近い過去からの苦い教訓となっただけでなく、未来への警告ともなった。地球という惑星は、全人類にとってのゆりかごであり、家である。それゆえ、地球を守ることは、一人ひとりの人間の責任であり、世界全国民共通の責務

である。チェルノブイリの悲劇をはじめとする、現代の地球規模の問題を解決する礎となるのは、今後においても現在そして未来の世代のより良い未来に向けた国際的連帯、協調活動であると私は確信している」と述べています。

一方、34周年を前にした4月はじめ、ウクライナの一連の元原子力発電所所長、チェルノブイリ原発主任技師ら、原発関係者がウクライナの原発政策について警告する書簡を大統領はじめ政府首脳に送り、公開しました。この中では、ウクライナ原子力公社には何か月にもわたって、原子力規制当局の認可を得たような、常任の法的適任者がいないこと、安全操業や燃料調達のための財源が不足していること、原子力を専門としない者を原子力公社幹部に据えようとする試みが絶えないことなどが指摘されています。そして、次なるチェルノブイリに向かって国が滑り落ちていくのを止めるよう、要求しています。

*ウクライナの新型コロナウイルス感染状況（6月17日現在）感染確認者33,234名（回復14,943名）。死亡者943名。検査総数517,955。1日当たりの新規感染者数は、5月末までは多い日で500人台だったが、5月末以降規制が解除されるに伴い増加傾向を示し、6月半ばには連日600人台から700人台で過去最多を記録する日が増えている。首都キエフの他、全般に西部地域で感染拡大が目立つ。6月12日には大統領の妻の感染が確認され、その後肺炎で入院。（大統領は陰性だが、自主隔離による執務に移行。）ウクライナの最新状況についてはウクライナ国営通信社が日本語ニュースを配信していますので、関心のある方はご確認ください。

<https://www.ukrinform.jp/>

--*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*-*

【ベラルーシ】

報告：花田朋子
（子ども基金ボランティア／ベラルーシ在住）

2月28日に最初の新型コロナウイルス感染例が出て3カ月余り。ベラルーシはロックダウンや外出禁止などの措置をとらず、基本的な衛生

管理やソーシャルディスタンスの維持を呼びかけるにとどまっています。このため、商店や飲食店も他のサービス業や公共機関同様、感染防止対策をとりながらおむね営業を続けています。一方、興行や娯楽施設は、多くが休業か中止／延期となっています。5月9日の対独戦勝75周年記念パレードを執行したベラルーシですが、チェルノブイリ原発事故が発生した4月26日に行われる反体制派による恒例の集会は中止となりました。学校（小中高）は春休みが3週間まで延長された後、4月下旬には授業が再開されましたが、自宅学習も容認され、メールなどで送られる課題をこなしながら5月末の学年終了を迎えた生徒が半数以上だったのではないのでしょうか。大学は多くがオンライン授業に移行していますが、6月上旬の中学・高校の卒業試験は例年通りの日程で、大学入試のセンター試験は2週遅れで実施される予定です。

ミンスクの都心部では観光客の姿が消えたほか、特に週末は買い物客なども少なく閑散としています。テレワーク導入が進んだとは言え、平日はそれなりに人の動きがあり、公共交通機関を避ける目的もあるためか、道路の交通量はそれほど減ったようには思えません。当初品薄だったマスクは、今はスーパーでも売られています。マスクをしている人は4割程度でしょうか。食料品や日用雑貨で手に入りにくくなったものも特にないは幸いです。

国民の批判を浴びながらも経済を優先させてきたベラルーシですが、医療関係者への負担増大や経済への打撃は免れず、当局は実態を隠していると考えている人が少なくありません。こうした中、8月には大統領選挙の実施が決まり、コロナどころではなくなってしまうのが心配なところです。

*2020年6月5日時点でベラルーシの新型コロナウイルス感染者数は46,868名（人口100万名当たりでは世界10位）、うち22,066名が回復し、死亡者は259名。4月末以降、1日に800～900名台の新たな感染が確認される状況が続いている。検査件数はのべ597,013。

新型コロナウイルス感染症対策の スウェーデンの施策を見る

新型コロナウイルス感染症 (COVID-19) の世界各国の政策を見ると、どこも死者や医療崩壊など大騒ぎで、ロックダウン、クラスター、オーバーシュートなどと慣れない言葉だらけです。武漢での報道を受け、必要な情報を入手してすぐに私のブログに速報を載せました。その後の経緯は予想通り「感染率は高いが、致死率は低い」でした。また重症化し、死亡するのは社会経済的弱者であると考えました。子どもは重症化していません。世界的にも死者の多くは予想通りでイタリアは日本に次ぐ世界第2位の高齢化社会で、死者の平均年齢は80歳、63%が3つ以上の持病を持つという。アメリカでは、ニューヨークを始め、死亡率は人口密度に比例し、黒人とヒスパニック（中南米系移民）の感染率と死亡率が高く、人種や収入による不平等が要因という。ニューヨーク市の低所得地域では43%が抗体陽性で、中でもヒスパニックの陽性率は56%に達した。ブルックリンでは黒人の陽性率が80%という地域もあった。

病原環境論では、感染症の歴史を人と微生物との適応関係と、微生物が繁殖する環境、人の免疫が低下する環境などがそろった時に大流行すると考えます。それは過去のペスト、天然痘、インフルエンザなどの歴史を総括しての結論です。また医学は社会科学であり、医学医療は社会が病気と闘う武器の一つに過ぎないのです。

COVID-19対策を社会的（国別）に見ると、イギリスは科学的助言者グループの提言「封鎖せず」を取ろうとしたが、造反医師のために世論が誘導されて結果は封鎖した。スウェーデンは政府衛生局責任者である疫学者の方針通りに封鎖せずに感染を広げることで対応した。高齢者にだけ自宅待機を要請し、それ以外の制限はなし。一時期、高校や大学は休校にしたが、小中学校は休校せず。50名以上の集会禁止、不要不急の旅行の禁止、小売店やショッピングモールへの入店者数の制限

を課したものの、多くの店舗やレストランは閉鎖せず。ボルボの自動車工場は一時閉鎖されたが、その後再開した。スウェーデンの死者のうちの半数は高齢者施設の中で集団感染した人々で、スウェーデン在住日本人によると、規制緩和してできた民間の高齢者施設だという。新型コロナウイルス感染症は、当初は「感染率は低い、致死率は高い」とエボラ出血熱と同じと考えられ、都市封鎖が実施されたが、結果は逆でした。その判断を公衆衛生学者ではなく、感染症学者に任せたのが間違いで、疫学者が政策を主導したスウェーデンだけが都市封鎖をせず、感染を広げて第二波の襲来を防ごうとしました。スウェーデンのストックホルム市では抗体陽性率が25%と言います。それが日本では1~8%とのデータが出されています。スウェーデンはこれで第二波の襲来を遅らせることができると言っています。

科学史を知らず、臨床しか知らない専門家（昔は専門馬鹿と言いました）の医師たちに政策判断を委ねてしまい、安倍首相も愚策を弄してしまいました。学童防波堤論による小中学校の閉鎖や、マスクの強制、三密禁止などは単にウイルスの拡散を時間的に遅らせるだけ。第二波が心配。医療崩壊も起きるのは、実は医療従事者の感染症への恐怖と大病院での医師のブラック企業並みの労働強化、看護師の三交替制の廃止などと、保健所と都立病院（前身は伝染病院で都民の不安対策だった）を縮小したことです。京都の放火事件の犯人への救済をする医師の存在を知り、まだ医療崩壊はしないだろうと思います。不安と労働強化が免疫を低下させます。横浜のクルーズ船の乗客のように、高齢でも持病があっても、自己の健康管理をきちんとしていれば心配ありません。クルーズ船の乗客の大半が65歳以上で、PCR検査陽性が20%でしたが、発病率はその半数の10%でした。死者は13人で、死亡率はインフルエンザより低かったです。

黒部 信一
すずしろ診療所所長 小児科医師

ブログ <https://blog.goo.ne.jp/kuroshin1941>



募金・救援状況



●募金状況 2020年2月～5月 (単位:円)

	2月	3月	4月	5月
募金件数	78	96	38	27
救援寄付金	420,002	494,754	1,093,400	357,965
保養費	132,500	116,500	39,000	103,765
里子支援	103,430	67,260	217,420	66,420
ニュース購読費	36,000	48,000	18,000	6,000
イベント賛同金	2,000	—	—	—
合計	691,932	726,514	1,367,820	534,150

*その他、切手、ハガキ、商品券等のご寄付をいただきました。

●救援状況 2020年2月～5月 (単位:円)

＜ウクライナ＞	
◎チェルノブイリの子どもの生存	
病気の子どものための保養費	1,316,553
＜ベラルーシ＞	
◎困難の中の子どものために希望を	
里子支援金(7月～12月分)46人	1,563,072
緊急支援(7月～12月分)6人	130,320
甲状腺手術を受けた親と子どもの保養の交通費	81,210
スタッフ給料(1月～12月分)4人	261,408
車修理代	43,568
◎子どもリハビリ・健康回復センター「希望」	
甲状腺手術を受けた親と子どもの保養費	893,802
病気の子どものための保養費	1,325,815

♡ 団体名一覧 ♡

(順不同・敬称略)



紙面の都合上個人名は省略させていただきます。ご寄付をいただいたみなさまに心よりお礼を申し上げます。

【2月】川和保育園父母の会、日本キリスト教団広島船越教会、日本キリスト教団代々木上原教会 教会学校

【3月】奥中山教会、カトリック徳田教会、スラージ

【4月】実教出版労働組合、三重チェルノブイリ被曝児童救援募金

* 2020年版チェルノブイリ救援カレンダー * 収益金 809,547 円 (5/31現在)

多くの皆様のご支援、ご協力に心より御礼申し上げます。上記のうち、162,000 円を福島の子どものための支援といたしました。

※カレンダーの収益は、「未来の福島子ども基金」を通して福島の子どものための支援に活用されます。<http://fukushimachildrensfund.org/>

マトリョーシカのマグネット



★募金振込口座のご案内★

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。同封の振込用紙によるお振込のほか、以下の口座へ直接お振り込みいただけますので、ご都合のよい方法をご利用ください。※振込用紙以外でお振込の場合は、お名前、金額、ご寄付の内容のご連絡をお願いいたします。

(1) 郵便振替口座 00160-4-98316 口座名 チェルノブイリ子ども基金

(2) ゆうちょ銀行口座 店番 019 店名 〇一九店(ゼロイチキュー店)

預金種目 当座0098316 受取人名 チェルノブイリゴドモキン

(3) 三菱UFJ銀行 支店名(番号):新宿中央支店(469)

口座番号:普通 1688367 口座名:チェルノブイリ子ども基金

【販売品のご案内】

◆マトリョーシカのマグネット / キーホルダー 各 500 円

◆ベラルーシ製リネンクロス
サイズ大 (49×90cm) 900 円
サイズ小 (49×70cm) 800 円

子ども基金HPに画像を掲載しています。

事務局から

■「基金ニュースター」について

募金をくださった方には、使途の報告としてニュースターをお送りしています。またニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。(※ニュースターは子ども基金のHPでもご覧いただけます。今後、郵送がご不要の方は、お手数ですが事務局までご連絡をお願いいたします。)

■ボランティア募集

ニュース発送作業(年3回:2・6・10月):お手伝いいただける方を募集します。どなたでもお気軽にご参加ください。次回予定 10/17(土)午前11時~午後3時頃まで。ご都合のよい時間帯だけでも大歓迎です。
場所:東京ボランティア・市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ 10階) ※日程が変更になる場合もありますので、ボランティア参加希望の方は、前日までにメールかお電話でご連絡ください。電話は平日午前10時~午後5時。留守の場合は伝言をお願いします。

~~*みなさまからのメッセージ*~*~*

★ニュースをお送りいただきありがとうございます。チェルノブイリ事故から34年たった今でも、血液の病気に苦しむ子どもが多くいることに心が痛みます。夫は骨髄異形成症候群ですが、何とか普通に生活しています。苦しみを共有したい。(静岡県 Fさん)

★世界中を混乱に陥れた新型コロナウイルス感染症、そちらの詳しい事情はわかりませんが、ご苦労されたことと思います。この騒動中、基金の活動が忘れられないよう、いえ決してそれはあり得ないですが、スタッフの方々の頑張りを、遠くから見守らせてください。(宮崎県 Kさん)

★今年、後期高齢者の仲間入りです。これからはコロナの感染に注意を払い一日一日大切にそして楽しむこと(旅やラン)、やるべきこと(脱原発)も続けていきたいと思っています。(北海道 Kさん)

**** ご協力いただいているみなさまへ ****

いつもあたたかいご支援をまことにありがとうございます。振込用紙と領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております
事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。決して募金を強要するものではありません。また、すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

**払込取扱票のお名前・ご住所は楷書で
ご記入ください**

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ
通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

★編集後記★

豊田直巳さん講演会へ参加のお申込みをいただいた方々へ、延期のご連絡をしたところ、「新たな日程決まったら教えてください」「がんばってください」「体に気を付けて」などのお言葉をいただきました。事務局の活動を心配して電話をくださる方や、手作りマスクを送ってくださる方もありました。みなさまのあたたかいお心に感謝いたします。このニュースターの印刷、発送作業を行っている東京ボランティア・市民活動センターでは、感染拡大予防のため、会議室の定員減や会食の禁止等、利用に様々な制限が設けられました。これからもチェルノブイリ被災地の子どもたちの状況を見なさまにお伝えしていきます。



●チェルノブイリ子ども基金 NEWS 年3回(2・6・10月)発行●

〒177-0041 東京都練馬区石神井町3-16-15-408

Tel/Fax 03-6767-8808

E-mail: cherno1986@jcom.zaq.ne.jp

◇ウェブサイト <http://cfj.la.coocan.jp/>

◇事務局ブログ <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>